

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構

pmda No.33 改訂版 2017年 3月

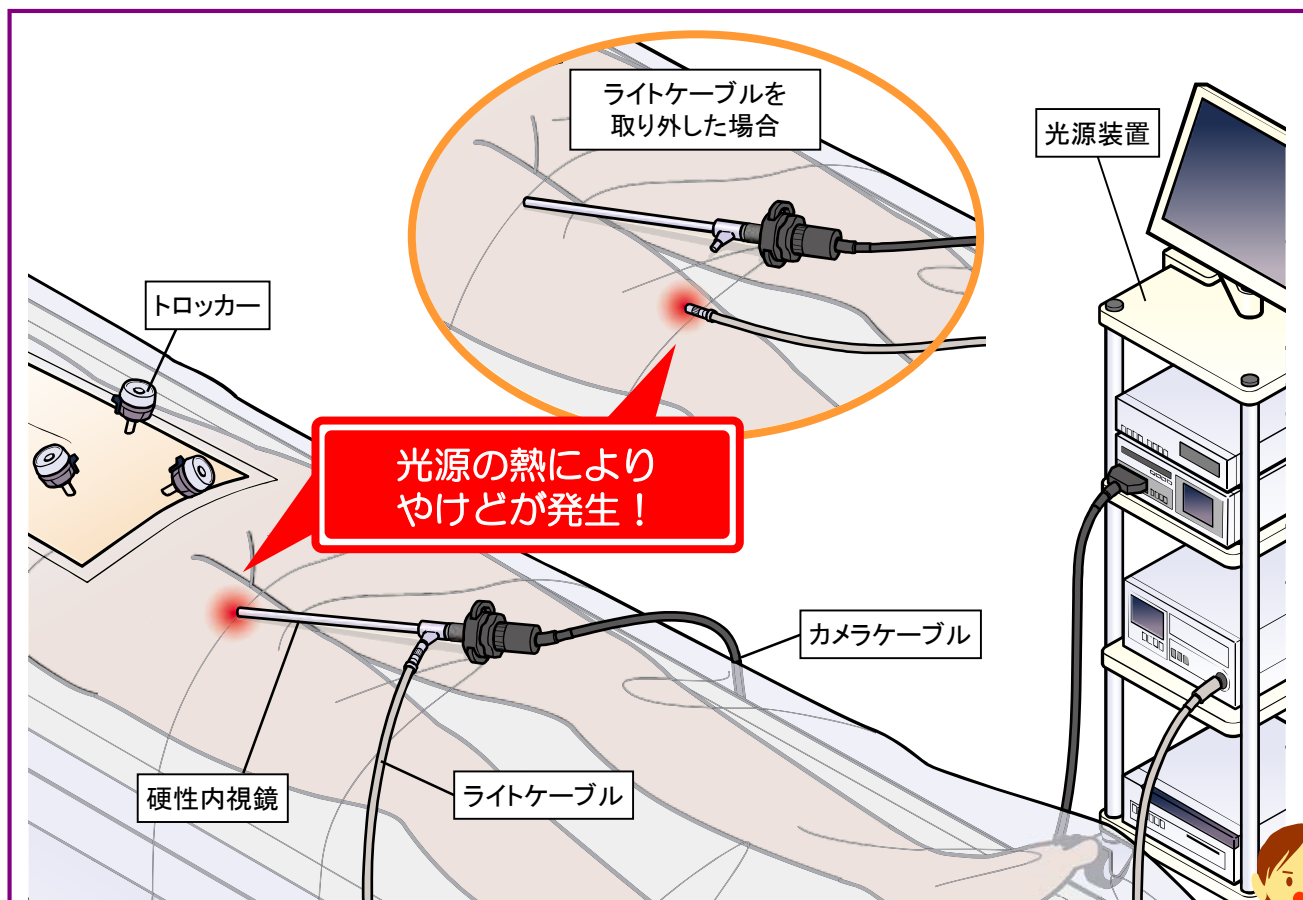
光源装置、電気メス、レーザーメスを用いた 手術時の熱傷事故について

POINT 安全使用のために注意するポイント

(事例1) 腹腔鏡下手術中、光源を点灯させた状態の硬性内視鏡をドレープの上に置いていたところ、ドレープが焦げて患者の大腿部にやけどを認めた。

1 光源装置の取扱い上の注意点

- 内視鏡や開創器などで光源を使用するときは、光源の先端部をドレープの上に直接置かないこと。



内視鏡の先端部や、内視鏡から取り外したライトケーブルの先端部は、光源装置の電源を切ってもしばらくの間、熱を持っています!

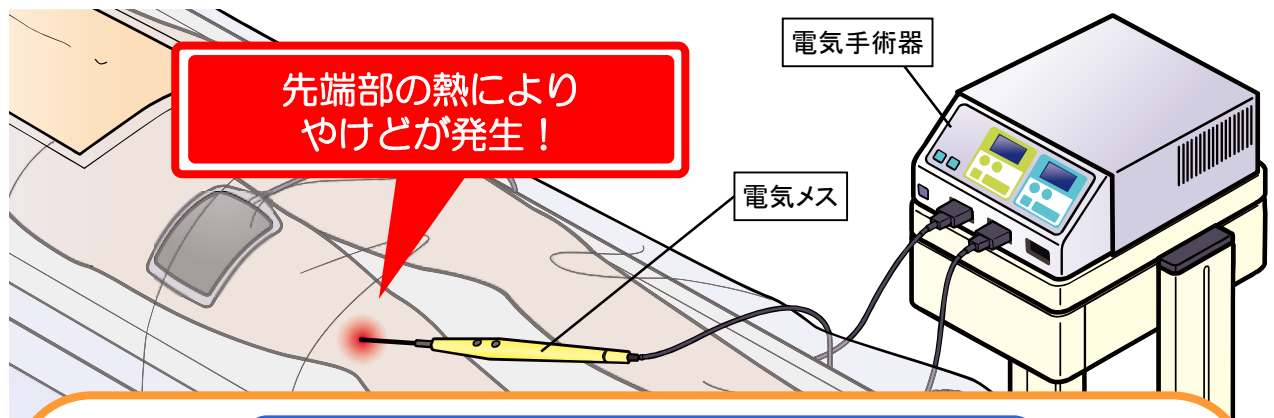


(事例2) 手術中、電気メスをドレープの上に置いていたところ、ドレープが焦げて患者の大腿部にやけどを認めた。

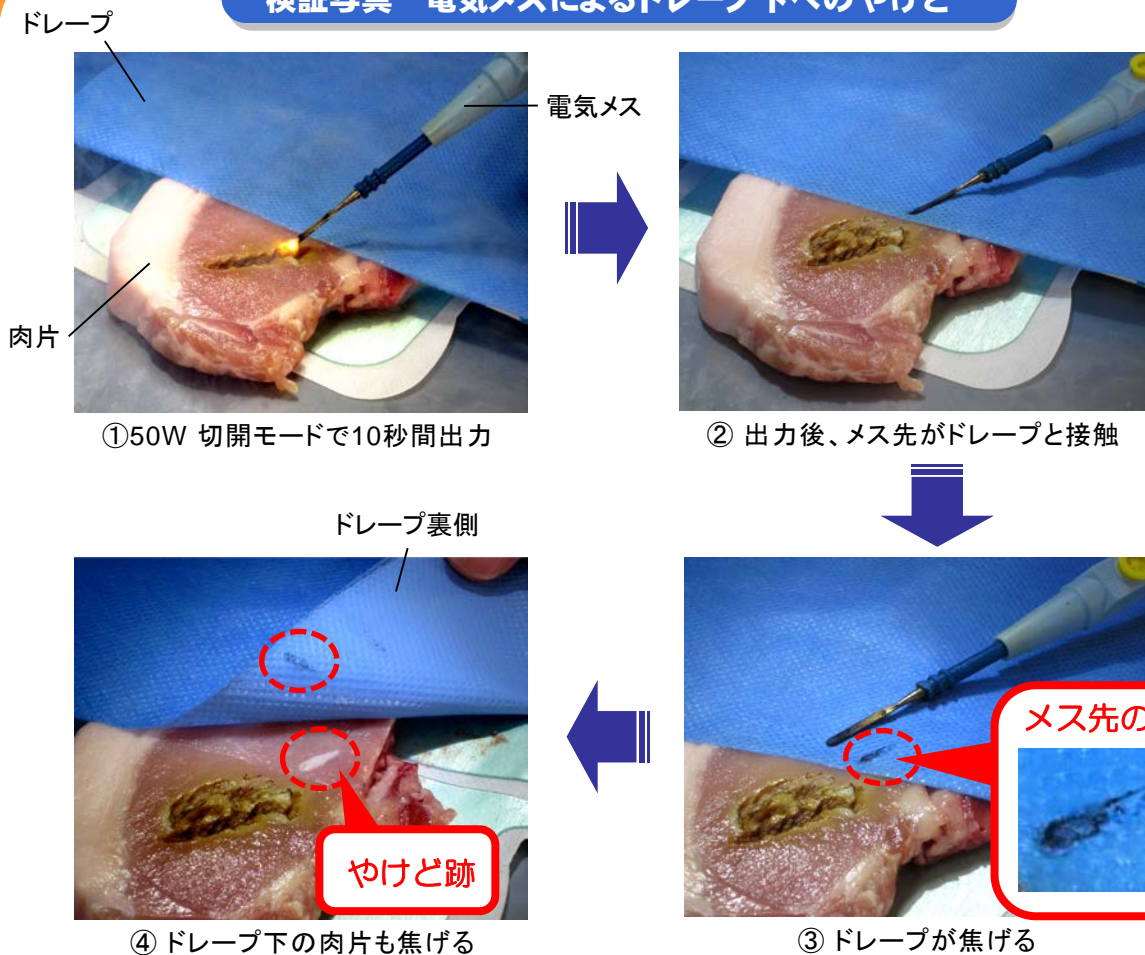
(事例3) 手術中、レーザーメスをドレープの上に置いていたところ、ドレープが発火し患者の大腿部にやけどを認めた。

2 電気メス及びレーザーメス等の取扱い上の注意点

- 電気メスやレーザーメスの先端部をドレープの上に直接置かないこと。



検証写真 電気メスによるドレープ下へのやけど



注) 上記の検証は一例であり、出力モードや出力時間、メス先の形状によりやけどの程度は異なります。

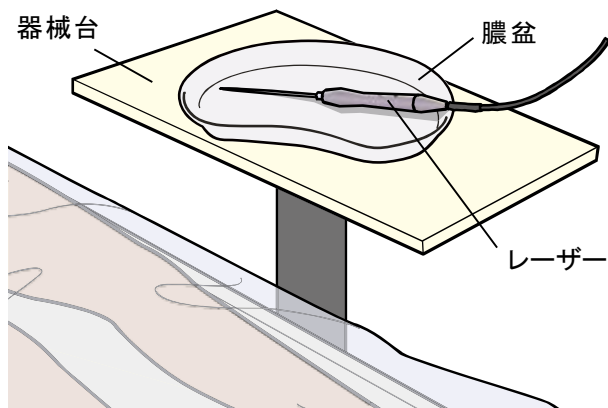
写真提供 (社) 日本医療機器工業会 手術用メス委員会

使用中の電気メスの先端部は非常に高熱(約300℃)であり、出力を止めてからもしばらくの間、100℃以上の熱を持っています!



手術中における電気メス及びレーザーメス等の管理の一例

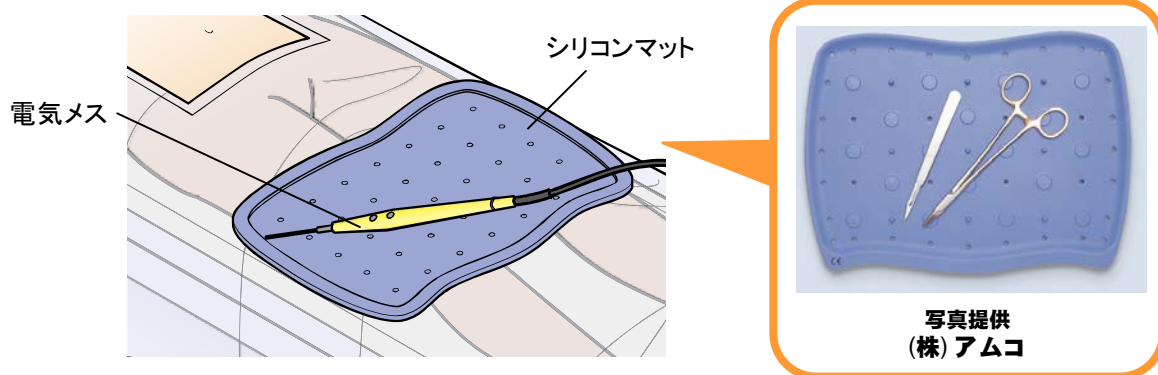
器械台への移動



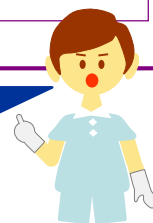
ホルスターへの収納



シリコンマットの使用



- 使用後の電気メス及びレーザーメス等はドレープの上に置かないことが原則ですが、手術時の状況によっては、上記のようなホルスターやシリコンマットなどの使用も有効です。
- 術者や機器等の配置にも留意し、電気メス及びレーザーメス等の患者への接触を発見した場合には、すぐに接触部から移動させてください。



本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び薬事法に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。